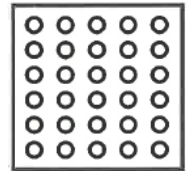


ご存知ですか？

3月18日は点字ブロックの日です！



こんにちは、私たちは「広島市視覚障害者グループ連絡会」といいます。
市民の皆様に、目の不自由な私たちへのさらなるご理解とご協力をいただきたく、私たちは「点字ブロックの日」にあわせて街頭に立ち、チラシを配布させていただいております。
長文になりますが、**知っていただきたい大切なこと**をまとめています。是非、読んでください。

点字ブロックが誕生して52年

目の不自由な方々の歩行支援を目的として、故三宅精一氏によって考案開発された「点字ブロック」。1967年3月18日、岡山盲学校に近い原尾島交差点周辺に世界で初めて敷設されました。2012年、点字ブロックの国際規格は日本のJISを規格に定められ、現在では多くの国に広がっています。

(お願い) 点字ブロックの上に自転車や車、物を置かないでください。

ぶつかってケガをするだけでなく、自転車や車を傷つけてしまう
かもしれません。



★「困っているような・・・」「危ない!」そんな様子を見かけたら、声をかけてください!

★「お困りですか?」「どちらへいかれますか?」「ご案内しましょうか?」
そんな声かけをお願いします!

★困っているというサインを示していなくても、危険な状態になっていることもあります。そばにいる、あなたの声かけが命を救います!

★駅のホームで転落事故が相次いで起きています。ホームから落ちそうな方向に歩いている姿を目撃したあなた、すぐに声をかけてください!

★目の不自由な私たちが、安全に町を歩く3つの方法

- ①手引きをする人と一緒に歩く
- ②歩行訓練を受けて一人で歩く
- ③訓練を受けて盲導犬を使って歩く

※道路交通法では、白杖を携えて通行することが義務づけられています。白杖を持っている人は、視覚に何らかの障害のある人だと判断できますので、安全な歩行にご協力ください。



★手引きワンポイント

- ・手引きをする人は、視覚障害のある人の半歩前に立ち、ひじの上をつかんでもらいます。(身長差や視覚障害のある方の好みに応じて、肩やひじの下をつかむ場合もあります。)
- ・常に2人分の幅を確保し、足元だけでなく、顔や頭、腕など体全体に障害物が当たらないように気を配りましょう。
- ・歩く早さは、視覚障害のある人に合わせるようにしましょう。

作成：広島市視覚障害者グループ連絡会

連絡先：社会福祉法人 広島市社会福祉協議会 (地域福祉係)

(広島市南区松原町5-1 BIG FRONT ひろしま6階 広島市総合福祉センター内 電話 082-264-6403)

目の不自由な私たちに、ご理解とご協力をお願いします！

いろいろな病気や事故などにより、人生半ばに視力を失うことがあります。

医学の進歩により、感染性疾患による視覚障害者は少なくなりましたが、食生活や生活環境の変化により糖尿病性網膜症などの慢性疾患、原因や治療法が確立していない病気、あるいは交通事故や災害などによって、人生の半ばに視覚障害者となる方（以降、中途視覚障害者と表記します。）が増えてきています。

現代社会は、テレビ、パソコン、スマートフォンなどをはじめとする電子機器とそれらが発する画像情報にあふれています。これらは、視覚障害者にとって過剰なストレスとなっています。

人は生活に必要な情報の8割以上を目から得ているといわれており、中途視覚障害となった人の多くが、それまでの仕事をあきらめ、仲間との行き来もままならず、社会との断絶を強いられている人が少なくありません。

また、医療の手を離れた後の不安は、回復への執着・焦り、これまでの仕事や人生に対する諦め・失望・無力感などを伴い、その間に、引きこもりの状態に陥ったり、「自殺」の二文字を考えたりしない人はいないと言われています。

このような状況の中で、各地域に中途視覚障害者の会や疾患別友の会が作られ、中途視覚障害者が人生を再出発していく上で大きな励みや支えになっています。

「広島市視覚障害者グループ連絡会」は、視覚障害者にとって安全安心な地域づくり、視覚障害者が孤立することのない環境づくりを進めるために、市内で活動するさまざまな視覚障害者のグループが協力し合おうというところから生まれました。

たとえ眼に障害があろうと、適切な環境さえあれば健常者と変わらない生活をおくることは十分に可能です。

○触って読み書きできるように工夫された文字が点字です。

○足裏の感覚を利用して歩道を正確に歩く事や、バス停や横断歩道の位置を正確に知ることができるように考案されたものが点字ブロックです。

○視覚障害者の存在を周囲に知らせたり、路面の状態を手伝えたり、いざというときに体を支えたりするために考案されたものが白杖（はくじょう）です。

○歩行者用信号が青になったことを視覚障害者に知らせる装置が音の出る信号機です。

○バスや電車にはその行き先や経由地を音声で案内する装置もつきました。

○視覚障害者の安全な歩行をアシストするように訓練された犬が盲導犬です。

○エレクトロニクス技術の進歩によって、テレビ、パソコン、炊飯器、給湯器、エレベーターなど、操作方法やその時々の状態を音声で案内してくれる家庭電化製品や設備も増えています。

○専用の用具やルールを工夫することによって、テニス、野球、バレー、サッカー、ヨット、ロッククライミング、水泳などのスポーツやゲームを楽しむこともできます。

○さらに、安全な外出や居宅生活のためのガイドヘルパー制度など、福祉制度も整いつつあります。

これらの事は、先輩視覚障害者の方々の強い願いと粘り強い努力、それに対する周囲の人たちや社会の理解と協力によってその実現が進みつつあるものです。

このような環境が整っていくにつれて、視覚障害者の生活は以前に比べて格段に便利になりつつあります。

とはいえ、環境が整うだけでは解決できない事もたくさんあります。

- たとえば、点字ブロックがいくら普及しても、その上や横に自転車やバイク・車などが置いてあれば、それは視覚障害者の危険につながります。
- 「住民から苦情があったから」と言って、音の出る信号機やバスの音声行き先案内が止められたり、音量が下げられたりすると、たちまち視覚障害者は自力での外出が難しくなります。
- 盲導犬同伴での利用を快く思われないお店やホテルがあれば、視覚障害者の快適な買い物や旅行は阻害されてしまいます。
- 視覚障害者の特性を十分に理解していないヘルパーの支援を受けることは、かえって視覚障害者のストレスになる場合もあります。
- 私たちにとって使いやすい音声ガイド機能付きの家電製品はそうでない物に比べて割高の物も多いですし、必要な福祉制度を利用するのにも複雑な手続きを求められたり経済的負担を強いられたりもします。 などなど

私たちは、私たちにとっての安全で快適な生活環境が維持され、充実され、機能していくには、私たち当事者の努力は当然の事として、周囲の人たちや社会の理解と協力があってこそ進んでいくものと考えています。

みなさんのご理解とご協力をよろしくお願いします。